第30回日本小児心身医学会学術集会講演記録

研究委員会報告

外来・入院心身医療ガイドライン

小柳　憲司，有井　悦子
石谷　暢男，泉　　和秀
氏家　　武，河内　博子
小林　繁一，田中　千鶴
辻内　優子，仲野由季子
藤川　貞敏，松島　礼子
小児心身医学総論ワーキンググループ

島津　智之，小柳　憲司
五月女友美子，滝澤　　昇
多田　　光，中津　忠則
新田　初美，福地　　成
湊崎　和範，安島　英裕
入院治療ワーキンググループ

研究委員会は，これまでに4つの疾患別ガイドラインを発表し，治療の標準化を目指してきた．しかし，学会としてはそれだけにとどまらず，各疾患の治療に共通する「小児心身医療における基本的対応」についてまとめていく必要があると考えた．そこで，平成22年度から総論研究班／入院治療研究班という2つの研究班を立ち上げて，ガイドライン作成作業を開始した．これらは，小児科医のうちサブスペシャリティとして小児心身医学を志す医師と，すでに小児心身医学を専門としている医師を対象に，小児心身医療の基本姿勢を示し，学会認定医の日常診療の基本的指標となるようにという目的で作成された．

『外来心身医療ガイドライン』は，心身医学的考え方を基本として「子どもの心と身体の診療に専門的にあたるために」必要な事柄について，ソフト／ハードの両面について記載している．基礎編，応用編，資料編に分かれており，基礎編は，小児心身医学の基礎知識（子どもの心の問題の好発年齢，心身症のメカニズム，治療の基本的な流れ）と小児科の中での心の問題の扱い方（関わり方の姿勢，守備範囲，対象年齢と移行期の関わり）について述べている．また応用編は，一般外来における小児心身医療の方法，心身医療の専門外来の立ち上げ方（診察室の構造，必要なスタッフ，診療費の請求など），専門外来における小児心身医療（初診時の面接，見立て，再診時の関わりなど），家族支援の方法，他施設との連携（精神科，教育，福祉との連携）について述べている．なお資料編は，子どもの心の発達，心理検査の知識，医療者のメンタルヘルスなどについてまとめる予定である．

『入院心身医療ガイドライン』は，どうすれば急性期病棟で小児心身医学領域の患者の入院治療を効果的に行うことができるか，小児心身医学の専門病棟を作るにはどうしたら良いかについてまとめたものである．構成は，入院治療総論，一般病院小児科における入院治療，より発展的な入院治療（小児心身医療の専門病棟を作るために），入院中にみられる問題行動（反抗，離院，自傷，スタッフを振り回すなど）とその対応，入院治療の実際，となっており，入院目的や入院期間を目安に入院治療の方法を詳しく述べている．

これらのガイドラインのうち，『外来心身医療ガイドライン』は『子どもの心とからだ』誌第21巻2号に，『入院心身医療ガイドライン』は第22巻1号に掲載されており，今後は本学会認定医試験の出題範囲ともなるので注意されたい．またこれからの予定としては，一般小児科医向けの，より基礎的な心身医療ガイドラインについても作成を予定している．

著者連絡先：〒854-0071
長崎県諫早市永昌東町24-3
長崎県立こども医療福祉センター小児心療科
（小柳　憲司）

Presented by Medical*Online